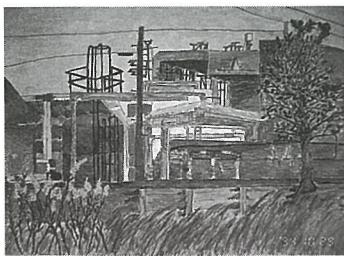


4年1組  
行方 彩さん

『ひがん花』

※花の一枚一枚をていねいにぬり、くきの色をいろいろかえるのがむずかしかつたです。



『ガス工場』

5年1組  
林 絵里子さん

※毎日少しづつ色をぬり、絵が完成するまでに30時間位かかりました。

6年2組  
行木育子さん

行木育子

※習字は、あつちよこちよいの自分を落着かせてくれる場と思つて練習に励んでいます。

評者吟

短評

フルムーンツアーハ吉備路栗食めり

椎名しげる

溝そばの流れを覆いて女坂 伊藤 幸枝（尾垂）  
御手洗に木々の影ある神無月 山崎 てい（二又）  
八十路超え百が目標月見酒 川島 重一（尾垂）  
秋寂びや女神の如き始過ぎて 行方くに子（篠本）

年金の財布低つく神無月 大木 素風（二又）  
神も仏も無いと言うが、年金生活は楽でない。季語が妙に現実味を帶びて迫る。

好き嫌い無なき家庭なり秋刀魚焼く 越川せつ子（篠本）  
心の通り合つ明るい家庭の一駒が、庶民の魚秋刀魚によつて巧ますに表現された。



『大きなおいもがとれたよ』

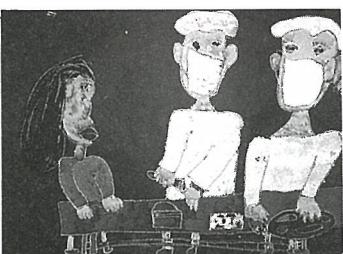
1年2組  
林 阿佑美さん

※6年生といもほりをしたら、大きな大きなおいもがどれました。

2年2組  
向後 淳くん

『さるの親子』

※うすく茶色にぬつたあと、毛なみがわからるように細い筆でかきました。

3年2組  
川島真一くん

『給食当番』

※紙が黒い色だつたので、白いがっぽう着をぬるのに少し苦労しました。

短日のつかえて開かぬ小抽出

日の暮れが早い冬の一日に追い回される主婦達に共通する切実な実感であろう。

